大千住マップ 保存版

地図中の番号は2013年10月～12月のイベント開催場所です。
おもて面のイベント案内を見てね！

酒場のまち

１０００円札１～２枚でも気軽に飲める大衆酒場のメッカ、千住。魚を扱う足立市場に近い立地ならではの安くてウマい店の数々。昔から酒場が充実している土地柄だけど、近年は、地元の若い世代がオーナーとなって、古い建物をカッコよく使った飲み処も多数。

飲み横

銭湯のまち

銭湯研究家をして「銭湯のゴールデントライアングル」と言わせる、銭湯の密集地域、千住。歩いても回れるエリアに今も11軒もの銭湯があるというだけでなく、キングオブ銭湯と呼ばれる大黒湯や、縁側から眺める庭が素晴らしいタカラ湯他、個性的な銭湯も数多い。今話題の「富士山」を、銭湯の湯船から眺めるのも一興。散歩の帰りに立ち寄ってみて。

大黒湯

商店街のまち

江戸のころから市場があって、流通のまちだった千住。今も商いのまちとしての顔は健在。賑やかな商店街を歩くと、量販店では見つけられないユニークなグッズや美味しいものが発見できる。

国立国会図書館蔵

川と路地のまち

花火で有名な荒川が、人工の川だとご存知でしたか？　隅田川（当時は荒川と呼んだ）の度重なる洪水を避けるため、大正期から昭和初期にかけて、人の手で掘られたのが現在の荒川。その広々とした荒川と、今も風景の美しい隅田川、２つの川にはさまれたまちが千住。江戸期からの町割を継承して路地が多く、散歩が楽しい。ただし、路地は生活と隣り合わせなので、静かに歩きたい。

荒川

宿場町のなごり

江戸期、宿場町だった千住には今もそこここに宿場町のなごりが残る。江戸期の商家、紙問屋だった横山家や、「どぶ板で名倉レましたと駕籠で来る」と川柳にも読まれたほねつぎの名医、名倉医院（現在は整形外科）。また、旧街道に面して、間口が狭く奥に長い町割と路地は、他の地域にあまり残っていない貴重な風景だという。路地のなかには蔵も見られる。

名倉医院

昭和の風景

江戸、明治、大正、昭和、平成と、それぞれに賑わってきた千住には、昭和の風景もたくさん見つけられる。

石黒のあめ

NTT東日本千住ビル

千住の魚河岸

江戸時代には野菜の市場（やっちゃば）として江戸の流通をになった千住大橋ふもとのあたり。今では、都内唯一の水産物専門の中央卸売市場、足立市場として、魚屋さんや飲食店の主人たちを迎える。プロ向けの市場だが、市場内の食堂棟、昆布や鰹節等の食材やプロの道具等を扱う関連事業者棟は、一般の人も利用できる。珍しいものが市場価格で入手できるかも。

写真協力：関田良輔、武居厚志、柏原文恵（敬称略）